



Business Report 2009

2008.6.1 ▶ 2009.5.31

ごあいさつ

皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
 第61期（2008年6月1日から2009年5月31日まで）の決算を終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。
 今後とも皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年8月



代表取締役社長
山下尚登

引き続きシェアの拡大と周辺事業の開拓を実現し、
 トータルメディカルサポート企業を目指してまいります。

Q 当期(2009年5月期)の営業概況と
 来期(2010年5月期)の目標について

当期の連結業績は、売上高が364億31百万円と前期と比較して1.9%増加したものの、同業者間の競争の激化や2008年の診療報酬改定の影響による収益環境の悪化および値引き圧力が高まるなどの外的環境の激化により、売上総利益率が低下したため、経常利益は3億7百万円と前期比21.7%の減少となりました。

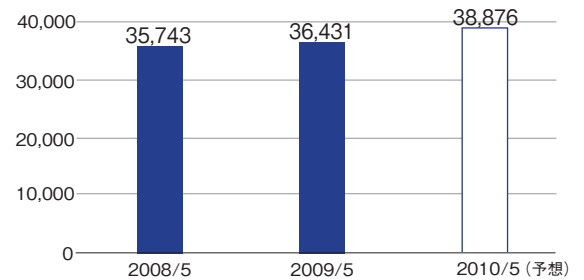
これは売上高が当初計画ほど伸びなかったことに加え、売上総利益率が低下したことが影響し、戦略的人員増による人件費を主とする販売費及び一般管理費の増加を吸収できなかったことによります。

しかしながら当期においては、来期に向けた戦略的基盤は確立されたと捉えており、来期は営業力強化のための組織変更に注力したいと考えております。内容としては、これまで営業推進機能を担ってきた「営業本部」と「新規事業本部」を一体化し、「営業統括本部」として、事業基盤の適正化を図るといったものになりますが、変更之际には代表取締役社長自らが営業統括本部長を兼務することで、厳しい環境への対応を図ってまいります。加えて、顧客ニーズに即した対応力とスピード化をさらに強化すべく、これまでのブロック制を廃止し事業エリアを再編。これを統括する「長崎・福岡エリア本部」「中部・南九州エリア本部」を設置します。さらに各事業分野を統括する「事業企画推進本部」の設置により営業組織の機能強化を行い、「物流仕入部」の新設により仕入統制機能も強化。利益率改善のスピードアップを図ります。

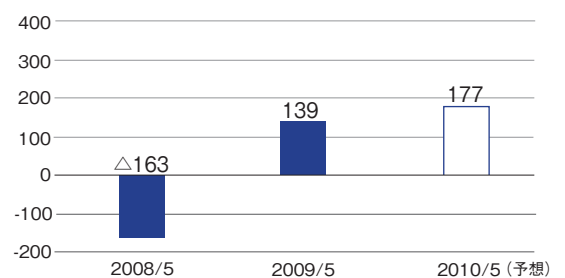
来期におきましては中期経営計画の中間年度として、当計画の経営目標達成を確実なものとするべく、全力で取り組んでまいります。

連結業績の見通しにつきましては、売上高388億76百万円、営業利益2億56百万円、経常利益3億26百万円、当期純利益1億77百万円を見込んでおります。

■売上高の推移 (単位：百万円)



■当期純利益の推移 (単位：百万円)





2009年6月1日オープンの東手城ヘルスケアモールについて



当社は「地域医療の発展に貢献する」という経営理念に基づく新しいタイプの医療モール事業を2007年10月より開始しておりましたが、この度、その第1号として広島県福山市に「東手城ヘルスケアモール」を開業いたしました。こちらでは疾病予防から治療、その後の健康維持・増進を目的に3,500坪の敷地に、ヘルスケア棟とクリニック棟の2つの施設と公園スペースを配置しております。ヘルスケア棟はフィットネスクラブ、自然食レストラン、カルチャースクールで構成、クリニック棟は6つのクリニックと調剤薬局で構成されております。ここでは定期的にドクター主催の医療セミナーを開催するほか、レストランでのドクターメニューの開発など、同居する異業種の施設が連携をとり有機的な施設運営を行います。

この形式の医療モールは過去に例がないオープン型という特徴を持っており、全国的に注目されております。

▶当冊子3ページからは「東手城ヘルスケアモール」の概要についてご紹介させていただいておりますのでご覧ください。



新中期経営計画「Re-Growth 10」の初年度進捗経過



2008年7月に策定いたしました新中期経営計画の骨子は、「厳しさを増す競争環境下において事業の安定成長を確実なものとするため、当社の基幹事業である医療機器販売業において市場シェアの拡大と利益構造の効率化を推し進め、周辺事業の開拓と収益化への投資を行い、長期的企業目標である“トータルメディカルサポート（総合医療支援）企業”への足がかりを構築する」というものです。

当期は新中期経営計画の初年度であり、市場シェア拡大という点においては既存顧客との関係性を強化するため営業組織体制の見直しを行う一方、眼科などの従来取り組みが十分でなかった診療科に対する取り組みを始めました。また、案件単位の利益管理をより厳格に行う仕組みを開発し、徐々にその効果も表れてきております。

しかしながら、医療費抑制政策を背景とする販売価格の下落圧力は根強く、新規開業案件・大型案件の発生も当初予想を下回り、診療科の深耕も進捗が遅れたことから、結果として連結売上目標は当初計画である約386億円に到達することができませんでした。

一方で、広島県福山市に建設を予定しておりました「東手城ヘルスケアモール」は2009年6月にグランドオープンを迎え、整形のインプラント（骨折治療に用いる体内埋没材料）の企画・開発を進めておりました連結子会

社の株式会社イーピーメディックは当該製品の上市を当期中に実現し、単年度損益も黒字へ転換するなど、事業構造の活性化に向けて次年度以降に向けた布石を打つことができました。

また、当期に取り組んだ本社移転などのコスト構造の改善効果も今後一定の貢献を見込むことができると考えております。さらに人材の育成・活性化を目的とした新人事制度の構築も当期にて完了し、新年度より施行しております。

このように計画に基づき様々な施策・活動を展開してまいりましたが、総括および反省点といたしましては、これらの計画が予定通りに進捗せず、当期の業績に貢献できなかったことです。異業種の参入も含め、ますます激化する競争環境において当社のシェアを拡大していくためには、より迅速、かつ大胆な営業上・経営上の判断が必要であると考えております。



株主の皆様へ



周知のとおり、日本経済は米国におけるサブプライムローン問題に端を発した国際金融危機の影響を受け、これにともなう国内需要の停滞により産業界全般の業績が悪化し、生産活動は低水準となりました。

私どもの医療業界におきましても例外ではなく、その影響は少なからず受けましたが、医療業界の収入構造は他の産業と異なるため、その影響は限定的であり、他の業界と比較すると堅調に推移しました。

しかしながら当社株価は低迷を続けており、株主の皆様にはご迷惑とご心配をおかけしております。株主資本・企業価値の健全な拡大と安定的な株主還元政策の実施は、企業の重要な責任であるものと認識しております。来期以降におきましても、長期的な事業の成長戦略を前提とする中で、資本戦略に関しても引き続き検討してまいります。

前述いたしましたように、来期は営業力の強化という経営方針に基づき、組織変更を行います。エリア本部制による現場レスポンスの向上、事業推進体制の強化、直轄事業分野の注力拡大、物流仕入部組織強化によりお客様に満足いただける企業にしていきたいと思っております。

また、当期から日ごろよりご支援いただいております株主の皆様へささやかながら、優待制度を新設させていただきました。こうしたことをはじめ、株主様に向けた適切な情報発信や、IR活動の充実も図り、長期的企業目標であります「トータルメディカルサポート（総合医療支援）企業」を目指して、これからも邁進してまいります。

株主の皆様には、今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。

2009年6月1日、医療と健康を有機的につなぐ、 東手城ヘルスケアモールがオープンいたしました。

当社はトータルメディカルサポート企業として、「地域医療の発展に貢献する」という経営理念のもと、患者・医療機関双方の効率性と利便性を高める医療機関の集約化（モール）構想を練ってまいりました。

今般、医療に食と運動を組み込んだ、求心力が強まるパワーセンターの発想のもとにヘルスケアモールを建築し、2009年6月1日、広島県福山市にオープンいたしました。

このページでは、ヘルスケアモールの考え方と施設概要をご紹介します。

☑ヘルスケアモールの考え方

▶「TOTAL MEDICAL SUPPORT」

当社は、医療機器等の販売に留まらず、医療・医業経営・地域医療連携におけるあらゆるニーズへの対応を事業目的としております。

本ヘルスケアモール事業を通じて、地域における医療提供のあり方、そして開業を志す医師の皆様に対して新たな可能性をご提案できるものと考えております。

▶「安心と希望を約束するブランド」

ヘルスケアモールのロゴマークは、隣り合わせた3つの円形でデザインされています。3つの円は、患者・地域社会・ドクターを象徴しており、3つの円形の弧によってできたシャープな白いスペースは希望を表しています。



医療とは、「安心」と「希望」を提供するものである。これが、私たちの信念であり、志です。

地域社会にとって、これからの医療にとって新しい価値を提供することができる、「安心」と「希望」を約束するブランドでありたいと考えています。

▶「生活に、ヘルスケア発想を」

医療と食、そして運動を組み合わせ、心身ともに健康な生活を送るための、これからの新しいライフ・スタンダード＝ヘルスケアを提案しています。

モールは、6つのクリニックに調剤薬局、自然食レストラン、フィットネスクラブ、カルチャースクールなどを配し、モールの中心部には緑地を広く確保、患者のみならず地域住民の皆様のご憩いの場として開放します。

さらに、ドクター主催の医療セミナーの定期的な開催や、レストランでのドクターメニューの開発など医療や食・生活・環境などのあらゆる角度から新しいヘルスケアの価値を提供します。

☑ヘルスケアモールの施設概要

東手城ヘルスケアモールは、11,248㎡の広大な敷地に、6診療科目のクリニック、調剤薬局、自然食レストラン、フィットネスクラブを配しています。

これまでの医療施設とは異なる暖色系の外装や、緑豊かな公園、駐車スペースといった緑地面積を20.1%確保するなど、明るく開放的な空間をつくることに努めています。

また、医療に健康を絡めた複合施設のビジネスモデルやショールームとして位置づけています。

オープニングイベントを 開催いたしました！

6月1日のオープンを控えた、5月30日・31日の2日間、東手城ヘルスケアモールにて、オープニングイベントを開催いたしました。

各テナント様のイベントを始め、医院開業相談コーナーや、健康セミナー、AED体験会、キッズコーナーなどの様々な企画に、2日間で約1,200人のご来場をいただきました。



Special Feature

Health Care Area

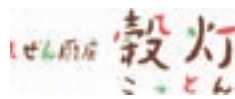


▶フィットネスクラブ

トレーニングとリラクゼーションを通じて心身のコンディショニングを高めるフィットネスクラブです。一人ひとりに合ったプログラムで健康維持と増進をお手伝いします。

▶自然食レストラン

旬の自然素材にこだわったメニューを取り揃えています。カラダとココロにやさしく、おいしい自然食をお楽しみいただけます。



▶カルチャースクール

いつもいろんなことにワクワクすることは、いきいきとした人生を送る秘訣です。様々な好奇心を満足させる教室を揃え、心の健康増進を目指します。

Health Care Area



Clinic Area



Clinic Area



胃腸科・消化器科

もりかわ内科クリニック

Heartful & Useful
COCOFUL
東手城ココフル薬局

▶6クリニック & 調剤薬局

最大6つのクリニックと調剤薬局が地域に最適な診療を行います。定期的に医療セミナーを開催していく予定であり、予防医療にも積極的に取り組んでまいります。

▼施設内MAP

Health Care Area

- H-1 フィットネスクラブ **JOYFIT**
- H-2 自然食レストラン **いせみ 穀灯**
- H-3 カルチャースクール **立花セーラー**

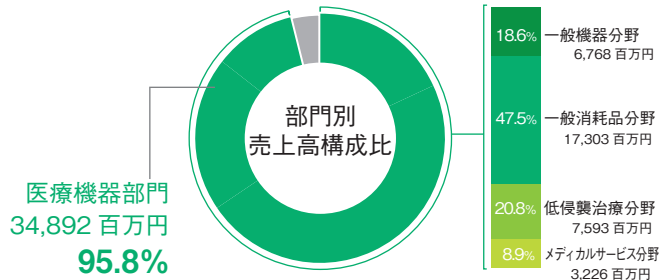


Clinic Area

- C-8
 - C-7
 - C-6
 - C-5
 - C-4
 - C-3
 - C-2
 - C-1
- C-3 内科 消化器内科 内視鏡内科 **もりかわ内科クリニック**
 C-2 東手城 **ココフル薬局**
 C-1 調剤薬局 **ココフル薬局**

▼ 医療機器部門

売上高 **348 億 92 百万円**
(前期比 1.3%増)

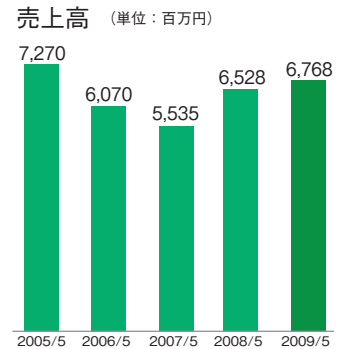


▶ 一般機器分野

医療機器部門の「一般機器分野」は、汎用医療機器から画像診断装置などの高度医療機器まで、幅広い製品を取り扱う山下医科器械の中核事業分野です。関与する診療科目も多岐にわたり、特に整形外科関連機器や臨床検査機器、理化学機器は、専門営業グループによる販売活動を行っています。

営業概況

一般機器分野では、基幹病院を中心に、医療機器備品の新規および更新の底堅い需要に支えられ売上高は67億68百万円（前期比3.7%増）となりました。



一般医療機器関連の主な取扱商品

- 外来診察機器
- 分包機、調剤機器
- X線撮影装置、CT、MRI
- 手術室関連装置
- 滅菌洗浄機器
- 病棟関連機器
- リハビリ関連機器
- 専門診断・治療機器
- 関節鏡手術機器

理化学関連の主な取扱商品

- システム生物顕微鏡
- 血液分析装置
- 研究・実験用科学機器
- 病理検査機器



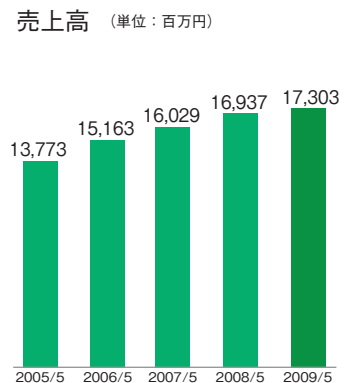
CT、マンモグラフィ(当社TMSセンターショールーム)

▶ 一般消耗品分野

医療機器部門の「一般消耗品分野」は、医療機関が使用する様々な医療消耗品を取り扱っています。この分野に関し私たちは、いち早く物品管理のアウトソーシングシステムであるSPD (Supply Processing & Distribution) を導入。また、独自で開発したWeb版物品管理システム（「Ytemss」ワイテム、「EiCUMSS」イーカム）を利用し、お客様の物品管理、発注作業をサポートするとともに、営業効率の向上と物流機能の拡充にも取り組んでいます。さらに、私たちのグループ企業である株式会社イーピーメディックのプライベートブランド品として、整形外科インプラントやディスプレイ商品なども取り扱っています。

営業概況

一般消耗品分野では、市場シェアの拡大等により売上高は173億3百万円（前期比2.2%増）となりました。



主な取扱商品

- 汎用医療消耗品
- 臨床検査試薬



整形外科関連の主な取扱商品

- 人工関節
- 骨折治療材料



* 2007年5月期より連結財務諸表を作成しているため、2006年5月期以前は個別財務諸表の数値を掲載しております。

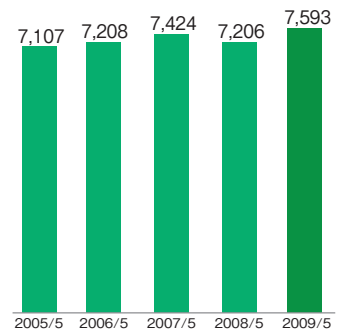
▶ 低侵襲治療分野

低侵襲治療とは、患者への身体的負担が少ない治療のことで、診療科目に関わらず、技術的進歩が加速している医療分野です。そのため、より専門性の高い治療技術が要求されることも確かです。応用範囲が急速に拡大した内視鏡関連では、今後特に生検、止血、碎石、造影といったカテゴリーの治療が進展していくことが予想されます。またX線透視下で行う画像診断治療、IVR分野や、循環器系治療に使われるPTCAバルーンやペースメーカー、人工心肺装置などにおいても、様々な商品を取り扱っています。

営業概況

低侵襲治療分野では、循環器備品の受注増加や内視鏡処置用医療材料（IVE）の販売増等により売上高は75億93百万円（前期比5.4%増）となりました。

売上高（単位：百万円）



内視鏡関連の主な取扱商品

- 電子内視鏡システム
- 各種ファイバースコープ
- 内視鏡映像ファイリングシステム
- 内視鏡洗浄装置
- 超音波内視鏡

サージカル関連の主な取扱商品

- 手術用顕微鏡
- 外科用内視鏡システム
- 鏡視下手術機器
- 内視鏡処置具

IVE 関連の主な取扱商品

- 消化器内視鏡処置具

IVR 関連の主な取扱商品

- 脳血管内手術機器
- 肝臓動注化学治療法材料
- PTA 材料
- 胆管ステント、食道ステント
- PEG 関連製品

循環器関連の主な取扱商品

- 検査・治療用カテーテル
- 人工肺
- 人工心肺装置
- シネアンギオ装置
- ペースメーカー



内視鏡室(当社TMSセンターショールーム)

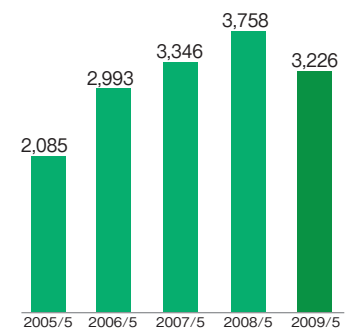
▶ メディカルサービス分野

私たちが手掛けるメディカルサービスには、クリニックの新規開業支援をはじめ、医療ガス配管設備工事、メンテナンスサービス、医療廃棄物収集運搬請負、福祉介護用品販売といった広範囲にわたるサービスメニューが用意されています。中でも新規開業支援に関しては、医業経営コンサルタント有資格者を中心に、TMSセンターを活用し、様々なソリューションを提供することができます。つまり、建物の設計・施工に関することはもちろん、融資などの各種手続きも積極的にアドバイスすることが可能で、開業時に必要な全てのサービスを一括してご提供します。

営業概況

メディカルサービス分野では、設備案件の減少による設備備品の販売減および放射線機器の大型案件の減少等により売上高は32億26百万円（前期比14.1%減）となりました。

売上高（単位：百万円）



新規開業に関する主なサービス

- 事業計画コンサルティング
- 建設・設計コンサルティング
- 導入設備、医療機器提案

医療環境に関する主なサービス

- 感染性医療廃棄物収集運搬
- 院内環境改善提案
- 院内感染対策提案

設備に関する主なサービス

- 医療ガス配管設備工事
- 医療ガス設備保守
- 手術室、ICU、CCU 設備工事
- 病室用設備工事

メンテナンスに関する主なサービス

- 医療機器、検査機器の修理、点検、保守



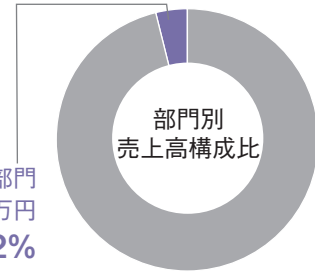
院内レイアウトを検討できる三次元CADルーム
(当社TMSセンターショールーム)

* 2007年5月期より連結財務諸表を作成しているため、2006年5月期以前は個別財務諸表の数値を掲載しております。

▶ 医療情報部門

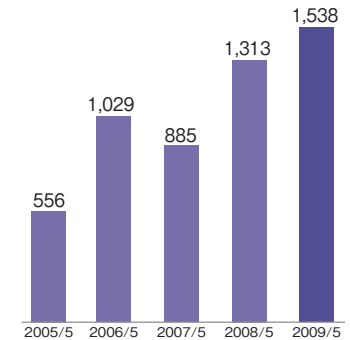
売上高 15 億 38 百万円
(前期比 17.2%増)

医療情報部門
1,538 百万円
4.2%



医療機関のIT化は、医療の現場だけではなく、医療機関の経営や運営面においても多大なメリットをもたらします。また、医療機関を訪れる患者に対しても有意義なものとして脚光を浴びてきました。私たちは、医療事務用コンピュータや院内情報システムを取り扱い、医療機関のIT化に寄与しています。医療事務用コンピュータでは、販売から保守、運用、ソフトのバージョンアップまで、一貫したサービスを行います。院内情報システムでは、電子カルテを中心とした患者の検査・治療指示情報のオンライン化や、画像ファイリングシステムなどの導入による画像診断のオンライン化に取り組んでいます。

売上高 (単位: 百万円)



営業概況

医療情報部門では、電子カルテ対応オーダーリングシステムの一括受注等、電子カルテ導入とレセプトオンライン化によるシステム投資およびIT機器需要等により売上高は15億38百万円(前期比17.2%増)となりました。

主なサービス

- 病院情報システム
- 画像ネットワークシステム(PACS)
- 放射線画像情報システム(RIS)
- 病歴管理システム
- 介護・福祉システム



主な取扱商品

- 医療事務用コンピュータ
- 電子カルテシステム
- 診察券発行機
- 画像ファイリングシステム
- 調剤用コンピュータ
- 電子薬歴システム
- 薬袋発行機



トピックス

画像診断機器の最前線

今日、画像診断分野は医療業界の中でも注目され、めまぐるしい速さで進化しています。特に日本では最先端の画像診断機器が中小病院でも整備され、精度の高い画像診断や、疾患の早期発見を実現するCT(コンピュータ断層撮影装置)・MRI(磁気共鳴断層撮影装置)は世界でも圧倒的な保有数です。近年のCT・MRIは体の断層写真を撮影するだけではなく、臓器や骨、血管などを立体画像で描出することも簡単にできますし、技術の進歩により撮影時間、診断時間も大幅に短縮し、患者の身体的苦痛を和らげ、より侵襲性の低い検査が可能となっています。

また、従来このような画像診断機器で撮影した画像は、フィルムで確認することが基本でした。しかし最近では、画像を電子化してサーバーで管理する

ことにより、モニタ上で撮影画像を確認する、「フィルムレス」で運用している医療機関が増えてきています。

当社では、医療業界の最新情報をいち早く取り入れ、画像診断機器から画像ファイリングシステムに至るまで、トータルでご提案しています。

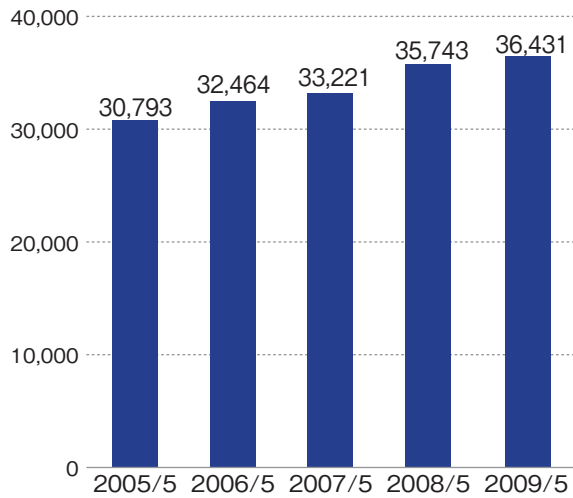


TOPICS

* 2007年5月期より連結財務諸表を作成しているため、2006年5月期以前は個別財務諸表の数値を掲載しております。

■売上高

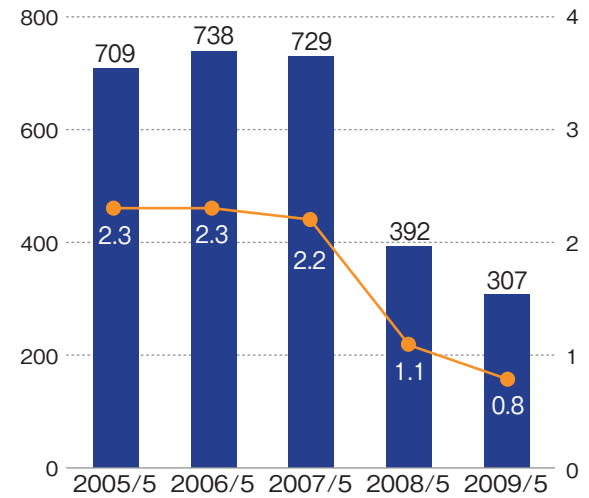
(単位：百万円)



■経常利益 ●売上高経常利益率

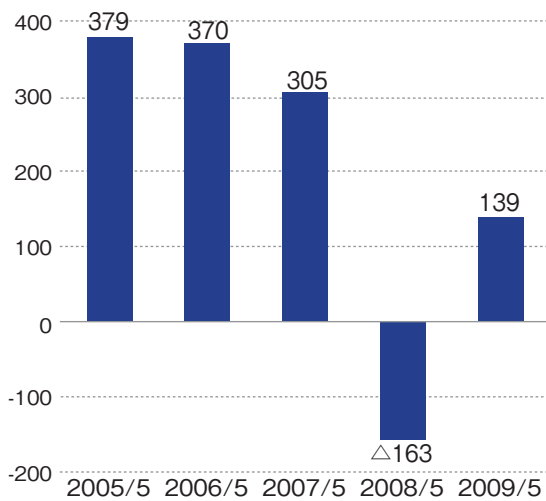
(単位：百万円)

(単位：%)



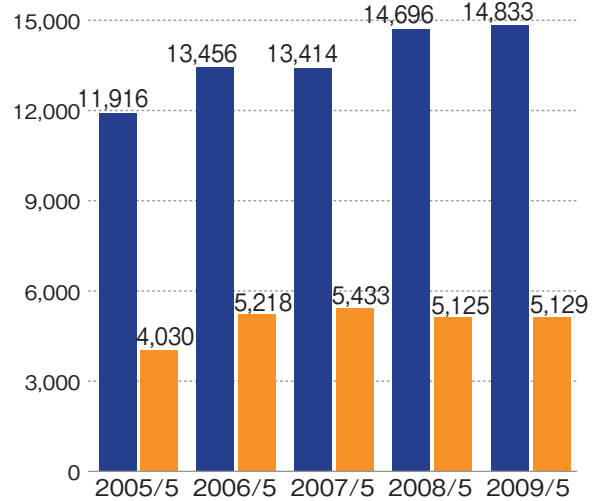
■当期純利益

(単位：百万円)



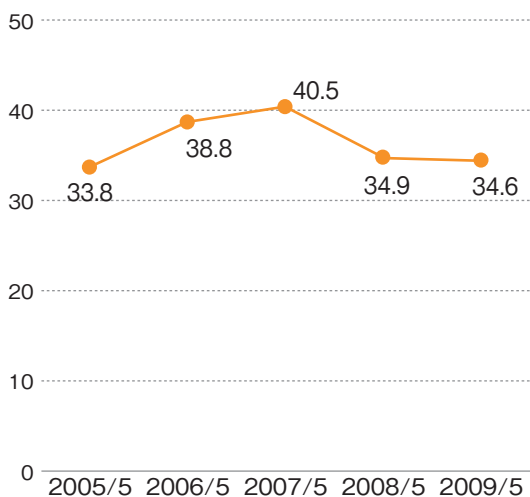
■総資産 ●純資産

(単位：百万円)



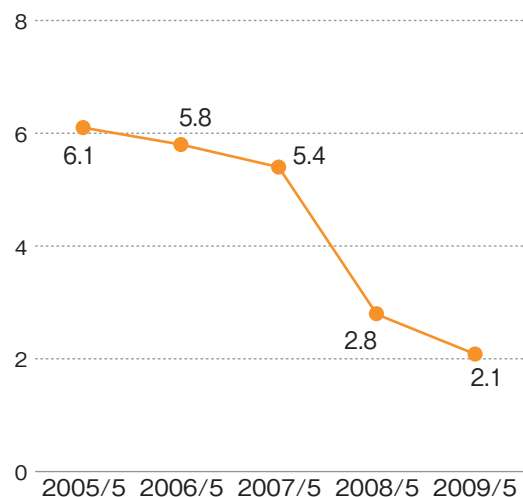
●自己資本比率

(単位：%)



●総資産経常利益率

(単位：%)



* 2007年5月期より連結財務諸表を作成しているため、2006年5月期以前は個別財務諸表の数値を掲載しております。

財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

科目	前期	当期
	(2008年5月31日現在)	(2009年5月31日現在)
●資産の部		
流動資産	11,371	10,731
固定資産	3,324	4,101
有形固定資産	2,582	3,405
無形固定資産	122	150
投資その他の資産	619	546
資産合計	14,696	14,833
●負債の部		
流動負債	9,257	9,392
固定負債	313	311
負債合計	9,570	9,703
●純資産の部		
株主資本	4,975	5,037
資本金	494	494
資本剰余金	627	627
利益剰余金	3,853	3,916
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	150	92
その他有価証券評価差額金	150	92
純資産合計	5,125	5,129
負債純資産合計	14,696	14,833

連結損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

科目	前期	当期
	(2007年6月1日から 2008年5月31日まで)	(2008年6月1日から 2009年5月31日まで)
売上高	35,743	36,431
売上原価	31,068	31,761
売上総利益	4,675	4,669
販売費及び一般管理費	4,359	4,454
営業利益	315	214
営業外収益	83	105
営業外費用	5	11
経常利益	392	307
特別利益	8	5
特別損失	376	29
税金等調整前当期純利益	24	283
法人税、住民税及び事業税	171	256
法人税等調整額	16	△112
少数株主損失	0	—
当期純利益又は当期純損失(△)	△163	139

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

当期 (2008年6月1日から 2009年5月31日まで)	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
前期末残高	494	627	3,853	△0	4,975	150	150	5,125
当期変動額								
剰余金の配当			△76		△76			△76
当期純利益			139		139			139
自己株式の取得				△0	△0			△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△58	△58	△58
当期変動額合計	—	—	63	△0	62	△58	△58	4
当期末残高	494	627	3,916	△0	5,037	92	92	5,129

個別財務ハイライト

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

▶売上高	▶営業利益	▶経常利益	▶当期純利益(△は純損失)	▶総資産	▶純資産
前期 35,682	前期 322	前期 400	前期 △158	前期 14,627	前期 5,136
当期 36,329	当期 222	当期 315	当期 148	当期 14,706	当期 5,149

●資産、負債及び純資産の状況

▶資産の部

当期末の総資産は、148億33百万円となり、前期末に比べて1億37百万円増加しました。流動資産は、主に現金および預金の減少、金銭信託償還による有価証券の減少、受取手形および売掛金の増加等により107億31百万円となりました。固定資産は、鹿児島営業所移転および医療モール建設による建物および構築物等の増加、基幹システムの改修によるソフトウェアの増加、株式相場下落の影響による投資有価証券の減少などにより41億1百万円となりました。

▶負債及び純資産の部

負債は、給与規程改定にともなう賞与支給時期の変更による賞与引当金の増加、内視鏡機器保守契約の新規案件減少による前受金の減少、医療モールテナント分預り敷金の発生等により、前期末に比べて1億33百万円増加し、97億3百万円となりました。

また、純資産は、前期末に比べて4百万円増加し、51億29百万円となり、自己資本比率は34.6%となりました。

●キャッシュ・フローの状況

▶営業活動によるキャッシュ・フロー

当期において、営業活動により増加した資金は32百万円(前期比16億67百万円減少)となりました。主な要因としては、給与規程改定にともなう賞与支給時期の変更による賞与引当金2億22百万円の増加、売上債権3億11百万円の増加等によるものであります。

▶投資活動によるキャッシュ・フロー

当期において、投資活動により減少した資金は10億15百万円(前期比8億62百万円減少)となりました。主な要因としては、鹿児島営業所移転および医療モール建設にともなう有形固定資産の取得による支出が9億62百万円、基幹システム改修にともなう無形固定資産の取得による支出が56百万円あったこと等によるものであります。

▶財務活動によるキャッシュ・フロー

当期において、財務活動により減少した資金は77百万円(前期比50百万円増加)となりました。主な要因としては、株主配当金76百万円の支出等によるものであります。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、百万円未満切り捨て)

科目	前期	当期
	(2007年6月1日から 2008年5月31日まで)	(2008年6月1日から 2009年5月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,699	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△152	△1,015
財務活動によるキャッシュ・フロー	△127	△77
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	1,419	△1,060
現金及び現金同等物の期首残高	2,399	3,818
現金及び現金同等物の期末残高	3,818	2,757

会社概要・株式情報 (2009年5月31日現在)

会社の概況

会社名	山下医科器械株式会社 YAMASHITA MEDICAL INSTRUMENTS CO.,LTD.	
創業	1926(大正15)年8月	
設立	1950(昭和25)年4月	
資本金	4億9,402万5,000円	
本店	〒857-8533 長崎県佐世保市湊町3番13号	
福岡本社	〒810-0004 福岡県福岡市中央区渡辺通三丁目6番15号 NOF天神南ビル6階	
従業員	500名(連結)	
役員	代表取締役社長	山下 尚登
(2009年8月27日現在)	取締役	嘉村 厚
	取締役	北野 幸文
	取締役	土田 哲也
	取締役	吉野 敏彦
	取締役	伊藤 秀憲
	取締役	山下 耕一
	取締役	佐田 高之
	取締役	小高 喜久夫
	常勤監査役	松尾 正剛
	監査役	石橋 政宏
	監査役	山下 俊夫
連結子会社	株式会社イーピーメディック	

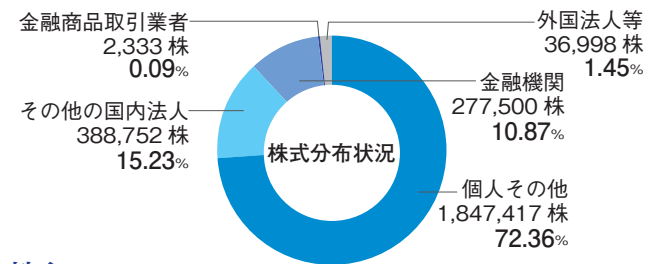
株式の状況

発行可能株式総数	8,000,000株
発行済株式の総数	2,553,000株
株主数	2,015名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
山下 尚登	446,600	17.50
山下 耕一	273,100	10.70
株式会社ミック	222,952	8.74
山下医科器械社員持株会	177,732	6.96
山下 弘高	80,000	3.13
オリンパスメディカルシステムズ株式会社	60,000	2.35
株式会社親和銀行	48,000	1.88
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口4G)	45,600	1.79
山下 浩	43,000	1.68
株式会社大黒	42,400	1.66

*持株比率は発行済株式の総数から自己株式数770株を控除した株数に対する比率を表示しております。



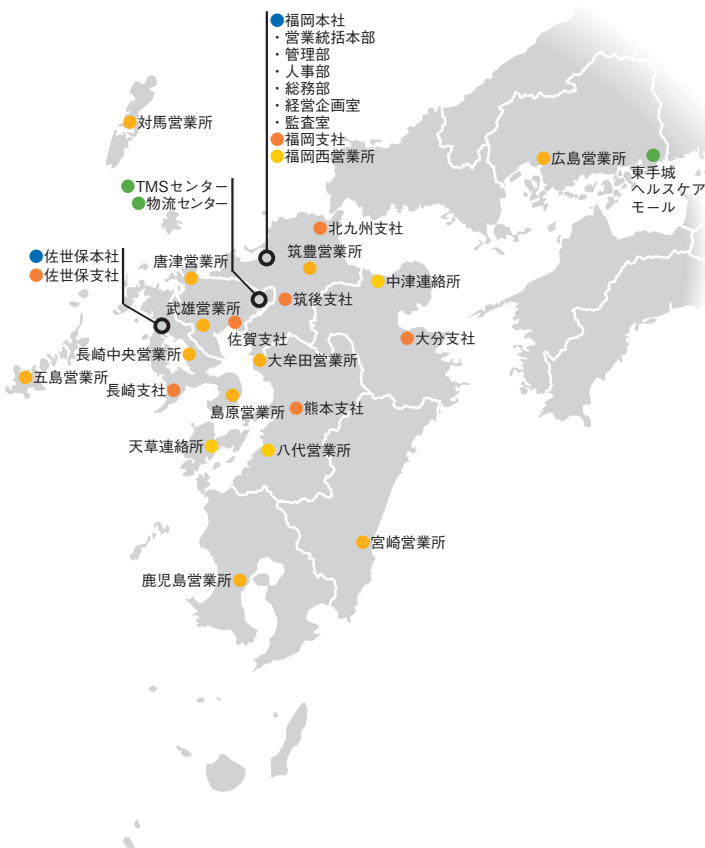
株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
剰余金の配当基準日	5月31日 中間配当を行う場合は11月30日
定時株主総会	毎年8月
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	証券会社に口座をお持ちの場合 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先	特別口座の場合 0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベストメント証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払い明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。 単元未満株式の買取以外の株式売買は出来ません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

公告方法 電子公告 (<http://www.yamashitaika.co.jp>)
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

○上場株式配当等の支払に関する通知書について
租税特別措置法2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、2009年6月にお支払いする配当金について株主様あてに「支払配当金額」や「源泉徴収税額」等を記載した「支払通知書」を通知することとなりました。
配当金を配当金領収証にて受け取られる株主様は来年の確定申告手続きに合わせて2009年末～2010年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。
(なお、口座振込を指定されている株主様は配当金をお受取の際に送付されている「配当計算書」が「支払通知書」となりますので、引続き確定申告の際の添付資料としてご利用ください。)
○株主様のご住所・お名前等に使用する文字に関するご案内
株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等(いわゆる「外字」)が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記載しております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。
株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。
なお、特別口座にて管理させていただいております株主様には、2009年2月に「特別口座開設のご案内」をお送りしており、そのご案内の中の注意事項で使用文字の制限についてご案内しております。

事業所



株主優待制度に関するお知らせ

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝し、2009年5月31日現在の株主様を対象に優待を開始いたしました。

▶ 株主優待制度の内容

(1) 対象の株主様

毎年5月31日現在の株主名簿に記録された

1単元(100株)以上保有の株主様を対象といたします。

(2) 優待の内容

下記基準の保有株式数に応じて、当該商品を贈呈いたします。

保有株式数	優待品
100株～999株	▶ 500円相当のクオカード
1,000株～1,999株	▶ 1,000円相当のクオカード
2,000株以上	▶ 1,500円相当のクオカード

(3) 贈呈の時期

毎年1回、当社定時株主総会終了後の8月下旬の発送を予定しております。



ホームページのご案内



当社WEBサイトでは事業に関わる情報から、IR情報まで様々な情報をタイムリーに発信しています。ぜひご覧ください。

山下医科器械

検索

<http://www.yamashitaika.co.jp>

yamashita
TOTAL MEDICAL SUPPORT

山下医科器械株式会社

福岡本社 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通三丁目6番15号 NOF天神南ビル6階

TEL092-726-8200 / FAX092-726-8212

<http://www.yamashitaika.co.jp>